



1月×日

今日はJUMPの新年会だ。考えてみると、H地区とのつきあいって、2005年以来だから6年目だなあ。新年会の会場はムラ<sup>注1</sup>の中にある集会所だ。みんなで鍋をつつきながらよもやま話がはじまる。と、FTMのユウキから電話だ。「今から行きますが、お酒、何を貰えばいいですか?」。ヤツも来るのか。さあ、いよいよ新年会も佳境だな。

\*\*\*

JUMPは、新大阪駅近くにあるH地区というムラで活動をしているNPO法人です。ムラの中にはさまざまに困難な状況を抱える子どもたちがいます。JUMPはそうした子どもたちをサポートするために、2006年に設立されました。<sup>注2</sup>活動内容としては、「バチスタ（学習会活動）」「オトロスター（バンド活動）」「キッズ広場（子ども会活動）」などがあげられます。

JUMPの人々との出会いは2005年、神戸で開催された第7回GID研究会の前日にあったトランスジェンダー全国交流会がきっかけでした。100人ほど入れる会場を探していたわたしは、H地区の人権文化センターでの開催を思いつきました。そして、「バチスタ」の活動をしていたKさんに相談をしました。すると、Kさんは即座に「やりましょう」と答えてくれました。当日は、バチスタにかかわっている青年たちが全面的にバックアップをしてくれ、とてもいい交流会になりました。

その翌年、「トランスジェンダー生徒交流会」をはじめました。当初京都で開催していましたが、兵庫の参加者から「できれば大阪で開催してほしい」という要望が出てきました。となると、H地区しかありません。再びKさんに相談をしたところ、Tさんを紹介してくれました。Tさんも、即座に「やりましょう」と答えてくれました。それ以来、ずっとH地区で開催させてもらっています。

2007年、大阪市は人権文化センターの廃館を検討しました。わたしは、H地区の人たちから「大阪市との交渉の場に来てほしい」と言われました。ところが

当日、突然パートナーの体調が悪くなり、わたしは行くことができなくなりました。途方に暮れたわたしは、とりあえず卒業生のユウキに電話をしました。「H地区の交渉に行ってくれへんか?」「いいですよ。でも、何言えばいいんですか?」「あのセンター、なくなったら困るやろ?」「困ります」「それを言ってくれたらい」。ユウキは高校生2人をつれて交渉の場に行きました。そこで次のような発言をしたと、H地区の人たちから後で聞きました。「ここはわたしたちにとっては単なる貸し館ではないんです。H地区の人たちがわたしたちのことを受け入れてくれているからここで交流会ができるんです。ようやく見つけたわたしたちのホームを奪わないでください」。この発言を聞いて誰よりも喜んだのは、ムラのおばあちゃんたちだったそうです。「H地区の人が『よう言うてくれた』って言って、ご飯食べに連れて行ってくれた」と、ユウキは後日うれしそうに話してくれました。糸余曲折の後、人権文化センターは存続しました。その後ユウキたちはJUMPの活動に指導者として参加するようになりました。「子どもから『男? 女? どっち?』って聞かれるんですよ」と笑っていました。

JUMPの人たちは「トランスジェンダー生徒交流会からたくさんのこと学んだ」と言ってくれています。そして昨年、「JUMPとして活動したほうが、もっとH地区で活動しやすくなるよ」と誘いを受け、現在は一緒に活動しています。

考えてみると、玖伊屋は「マダン文庫センター」<sup>注3</sup>で、まんまるの会は「まんまる」<sup>注4</sup>で開催しています。いずれも、被差別の立場にある人が大切に守り育ててきた場所、まさにその人たちの「ホーム」です。わたしはそんな「ホームの力」に守られていることを常に感じます。だからこそ、わたしもまた「ホーム」を守る人々の思いを感じたいと思っています。

(高校教員 土肥いつき)

【注1】被差別部落の人たちは、部落、特に自分の出身部落のことを親しみを込めて「ムラ」と呼びます。【注2】参加者はH地区の子どもには限定していません。【注3】「マダン文庫センター」は、京都の在日韓国・朝鮮人の集住地域である東九条で行われている民族文化運動の拠点です。【注4】「まんまる」は関西医科大学附属満井病院の近くにある授産施設です。